

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編

## 第2章 私たちのまちめぐろ

---



② 気象・気候

目黒区の気候は、東京の温帯に属します。夏は高温多湿で台風が通過することもある一方、冬は乾燥して晴天の日が続く傾向にあります。また、6・7月 は梅雨となり、雨天が続いて湿気も高くなります。過去10年間の年平均降水量は1,634 mmであり、局地的な豪雨が発生する年もあるなど、年ごとに変動がみられます。令和5(2023)年の年間降水量は1,268 mmとなっています。

気温は実態調査が始まった昭和47(1972)年(年平均気温:15.7℃)と比べて上昇傾向にあり、2023(令和5)年の年平均気温は17.6℃となっています。

目黒川などの水面や公園などまとまった樹木が分布する領域を中心に温度が低くなっている一方、水面や樹木が少なく、住宅が密集して風通しの悪い領域などでは温度が高い傾向にあります。

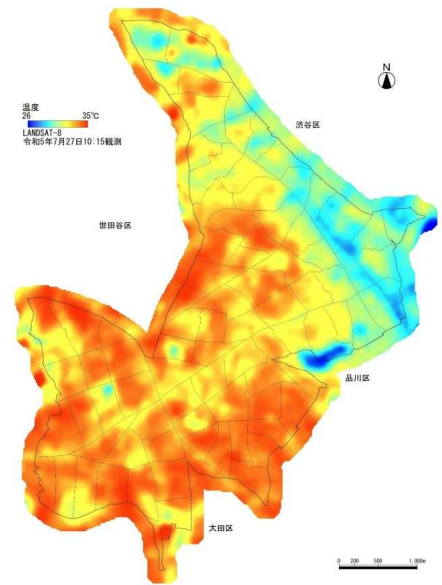


図2-4 目黒区の地表面温度分布<sup>R</sup>

(2) 社会環境

① 人口・世帯数

近年の傾向を基礎として区が行った推計では、今後も区の総人口は緩やかに増加傾向を続け、令和17(2035)年には約28.9万人となる見込みです。

年齢階層別の人口構成比はおおむね安定的に推移していますが、高齢人口の比率が上昇、生産年齢人口の比率が低下し、令和32(2050)年には高齢人口(65歳以上)が34.7%、生産年齢人口(15~64歳)が56.3%、年少人口(15歳未満)が9.0%になる見込みです。

区の世界帯数は人口の増加を背景として増加傾向にあります。1世帯当たりの人員数は単身世帯の増加に伴い、減少傾向にあります。令和2(2020)年には一般世帯総数は159,236世帯(1世帯あたり1.77人)となり、近年の傾向を基礎として区が行った推計では、今後も区の世界帯数は緩やかに増加して、令和32(2050)年には168,305世帯(1世帯あたり1.70人)となる見込みです。

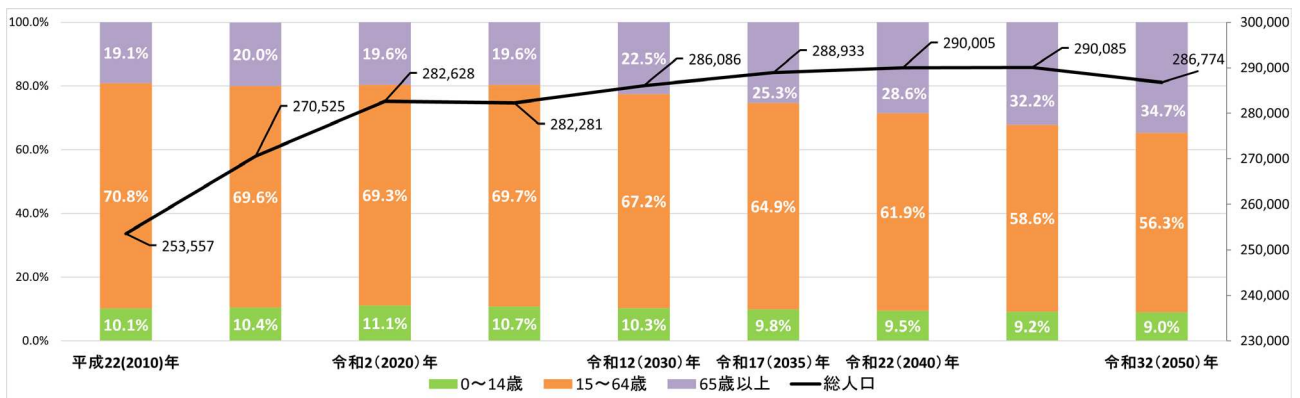


図2-5 目黒区の年齢区分別比率の推移と将来見通し<sup>R</sup>

② 土地利用

区全域面積 1,467ha のうち、宅地(公共系、商業系、住宅系、工業系、農業系)は 73.5%を占めています。宅地のうち最も面積を占めているのは住宅系で 51.5%、次いで公共系 11.9%、商業系 8.8%、工業系 1.3%となっています。

宅地以外の土地利用では交通系の割合が最も多く 18.7%を占めています。道路は管理者別に、区道、都道、国道に区分されます。次いで公園、運動場等の公園系が 3.2%を占めており、比較的規模の大きい公園として、都立林試の森公園、都立駒沢オリンピック公園及び区立碑文谷公園などが挙げられます。

その他には、空地系(屋外利用地・仮設建物、未利用地など)が 3.9%を占めています。これらは区内全域に点在しています。

比較的規模の大きい公共施設として、教育文化施設では目黒川流域に防衛省施設や東京大学、呑川流域に東京科学大学があります。また、厚生医療施設では目黒川流域に東邦大学医療センター大橋病院、呑川流域に国立病院機構東京医療センターがあります。

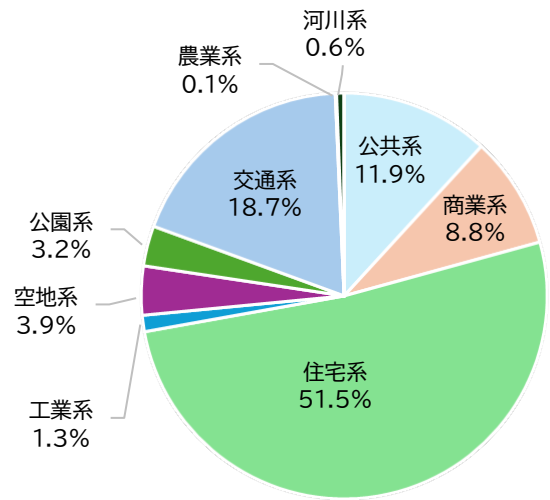


図2-6 土地利用の構成<sup>R</sup>

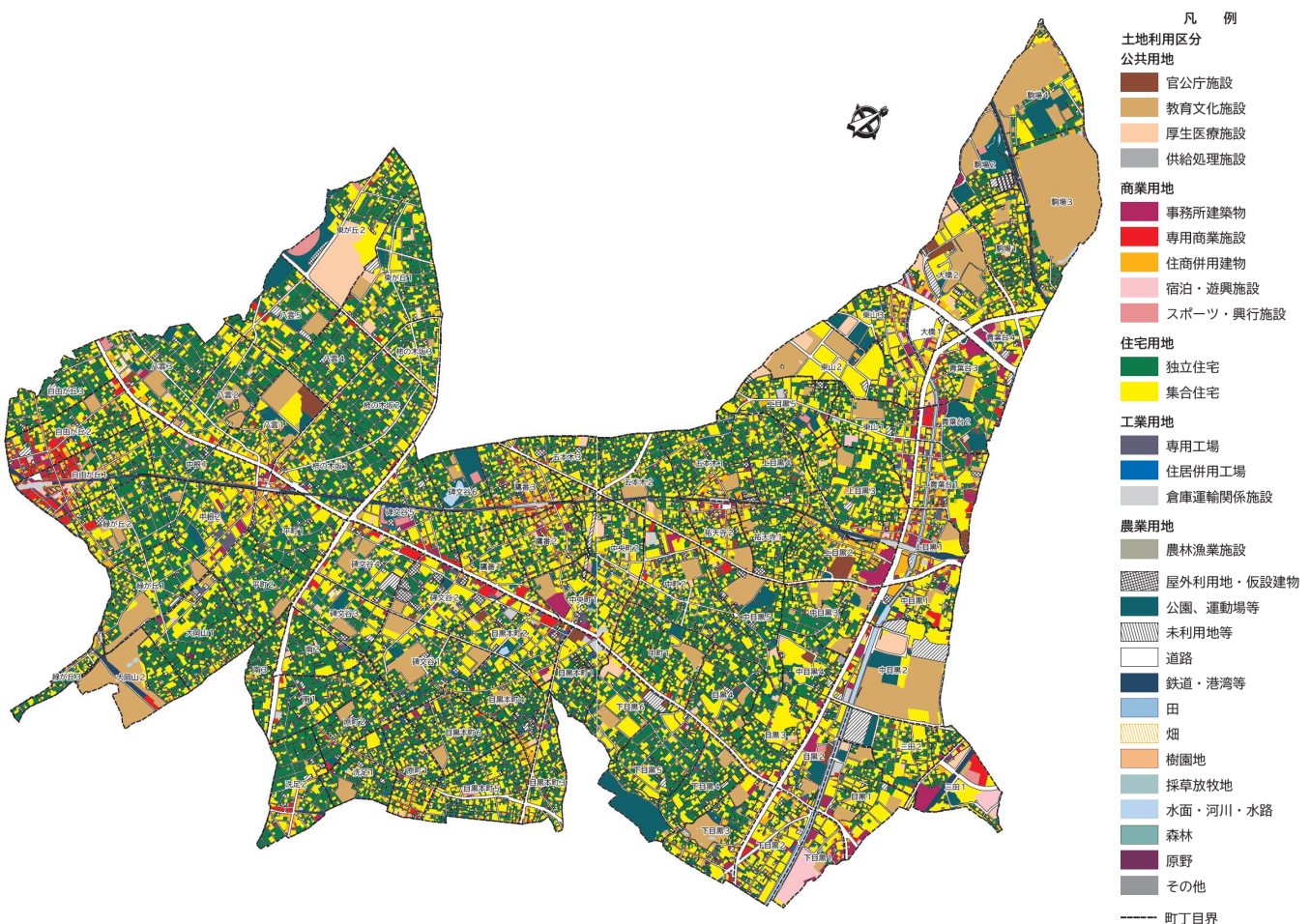


図2-7 土地利用現況<sup>R</sup>

## 2-2 目黒区の風景の歴史

### (1)土地・まちの成り立ち



目黒区は旧石器時代から人が住んでおり、縄文時代には大規模集落が形成されていました。東山貝塚からは貝類や魚骨、動物骨が発見され、豊かな自然の恵みを受けていたことがうかがえます。

江戸時代には江戸への野菜供給地として発展し、大根やナスなどを出荷していました。大鳥神社、目黒不動尊、高幡寺金毘羅権現社の目黒三社は「目黒詣」として庶民の行楽地となり、駒場野は将軍の鷹狩り場として知られていました。

明治以降も「目黒のタケノコ」をはじめとする野菜栽培が盛んで、季節ごとの輪作が行われていましたが、主に住宅地の開発などにより農業は衰退しました。

明治4(1871)年に東京府管轄となり、明治22(1889)年に目黒六か村が目黒村・碑倉村に統合されました。大正初期から昭和初期にかけて耕地整理が実施され、実質的な区画整理・道路整備が進みました。

大正 12(1923)年の関東大震災を機に東京市周辺への人口流入が加速し、目蒲線・東横線の整備とともに農地の宅地化が進行しました。その後、昭和 7(1932)年に両村が合併して東京市目黒区となり、昭和 18(1943)年に東京都目黒区が誕生しました。

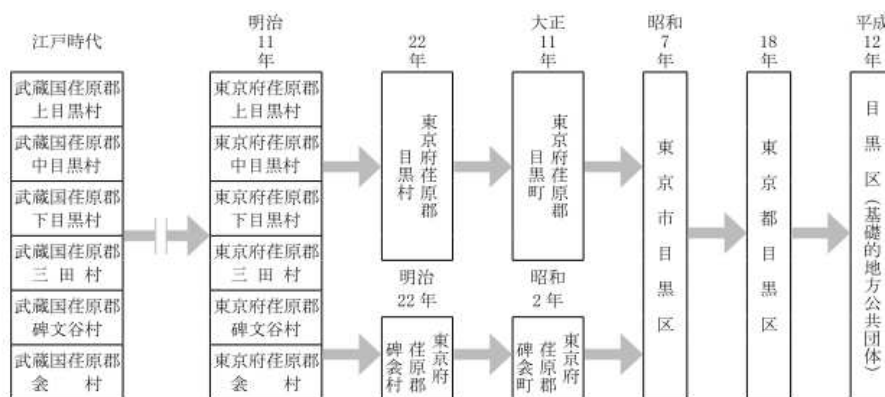


図2-8 目黒区の変遷<sup>R</sup>



写真 2-1 昭和 11 年竣工時の区役所庁舎<sup>R</sup>



写真 2-2 農の風景が広がる  
すずめのお宿付近(昭和 20 年代後半)<sup>R</sup>

## (2)めぐろのいきものたちと原風景



## ○ むかし見たいいきものたち

区で行ったいきもの調査から、むかしの目黒区の風景を想像することができます。

表2-1 むかし見たいいきもの調査

時代と場所	いきものの記憶(いきものの名称は原文で記載しています)
大正末から昭和6, 7年くらい(1920年代)までの思い出。呑川境橋のすぐ傍らの家(緑が丘在住自然通信員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対岸は低い粘土岩の崖になっていて、蟹(カニ)が穴から出てきた。</li> <li>・浅い流れの砂地には、丸い輪があり、掘るとシジミが出てきた。</li> <li>・東工大の今のグラウンドは原っぱで、キチキチバツが音をたてて、飛び跳ねた。</li> <li>・川べりには、オハグロトンボと呼んでいたトンボが無数にいて、舞っていた。</li> <li>・夕方はカナカナゼミの大合唱で蛸も飛んでいた。フクロウの啼声を耳にした。</li> <li>・緑が丘駅に行く道は、左右ほとんど野原で、兔を見かけた。</li> <li>・呑川には八つ目鰻がいて、目のくすりになると取りにきていたし、普通の鰻も橋の下のよどみで捕らえている人もいた。</li> <li>・カブトムシ、それにあの美しいタマムシ、ミズスマシ、ゲンゴロウもいた。</li> </ul>
小学生(戦前・1940年代)中里橋付近	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦前の目黒川で、ハゼ、フナを釣った、川がきれいではないので食べなかった。</li> <li>・なべころ坂の上にガスタンクがあり、キジを撃ちに行った。</li> </ul>
小学生(戦前・1940年代)田楽橋付近	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕かざりや、お盆のときのお供え物はマコモ(水辺の植物)で覆って目黒川に流した。</li> </ul>
小学生(戦前・1940年代)蛇崩川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土をとって遊んだ。川の周りは畑で、肥溜(こえだ)めが多かった。</li> <li>・肥溜めに落ちてしまった時は、家に帰ると叱られるので、近くの湧水がでるところで体を洗った。</li> </ul>
小学生(戦前・1940年代)中目黒周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目黒川船入場は子どもの遊び場で、引き潮の時間は膝下まで泥に浸かるくらいの深さで「ザリガニ釣り」をした。</li> <li>・生活用の水は、水道と井戸水の両方を使っていた。</li> <li>・し尿の汲み取りと生ごみを引き取ってくれる人が大八車で来た。</li> </ul>
小学生(戦前・1940年代)目黒川船入場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目黒川が洪水を起こした後は、「ナマス」や「コイ」がたくさんとれた。</li> <li>・染物屋さんが「友禅流し」をしていたのはよく見た。</li> <li>・「水車」があったかどうかは覚えていない。</li> </ul>
1950年ころ。東京工業大学大岡山キャンパス付近(大岡山在住自然通信員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭隅の里ザクラの焼木杭からやっとうった枝で玉虫が三年ほど育て、毎年一、二匹は息子の愛用物となった。</li> <li>・群れを成して飛んでいた「コジュケイ」、柿の木には百舌(モズ)の糞(にえ)が見つかり、杜鵑(ホトトギス)の声も聞かれた。</li> <li>・土の中には土龍(モグラ)もいて飼い犬が時折捕らえては遊んでいた。</li> <li>・ホタル=昭和29(1954)年、スズムシ、ガチャガチャ=昭和30(1955)年、銀ヤンマ=昭和59(1984)年……。</li> </ul>
小中学生時代(1950年代)中目黒八幡神社と正覚寺のほぼ中間付近(中目黒在住自然通信員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中目黒八幡神社の、裏手の林の茂みにはアオダイショウが、池の周りにはヤマカガシが時々すがたを見せた。</li> <li>・シラカシやイチジクにはコクワガタ、ノギリクワガタ、ミヤマカミキリなどが樹液に集まり、ゴマダラカミキリ、シロスジカミキリなども灯火をめがけて飛来。外灯にはドウガネブイブイがたくさん集まり、祖母はコフキコガネやカナブンなどを含めて、これらをコウタムシと呼んでいた。</li> <li>・私にとって境内最高の獲物はヒゲコメツキのオス(昭和29(1954)年)。襟首に落ちてきたのを払い落としたので片方のヒゲ(触覚)が切れてしまい、嬉しくもあり悲しくもあった。</li> </ul>

## ○ めぐろの原風景

目黒区には、駒場野、向原、月光原など、かつて武蔵野台地の一角で原野が広がっていたことを思い出させる地名が残されています。江戸から昭和にかけて残る絵図には、原野や農村が広がるようすが描かれたものがあります。また、昭和以降になると写真も残されており、これらの風景は、めぐろの原風景(私たちの原風景)ともいえるものです。

資料からは、かつての地域のいきものやいきものが住んでいた環境を垣間見ることができます。

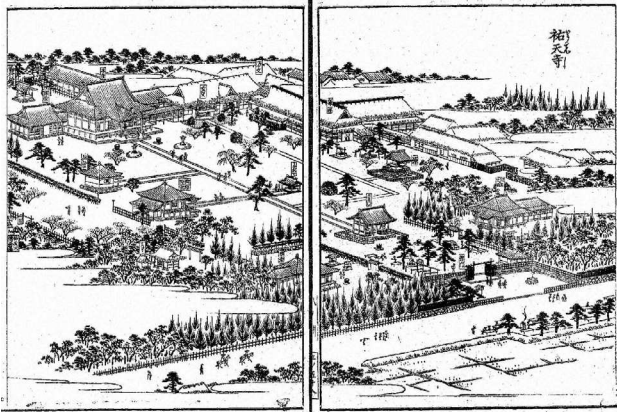


図 2-9 江戸時代の祐天寺<sup>R</sup>



図 2-10 名所江戸百景における駒場野(現駒場野公園一帯)(左)と目黒新富士(現別所坂児童遊園付近)(右)<sup>R</sup>



図 2-11 明治 42(1909)年の香川付近の地図<sup>R</sup>  
水色の部分は水田等の農耕地を示す



図 2-12 昭和 4(1929)年の香川付近の地図<sup>R</sup>  
目黒区誕生のころ、鉄道が敷かれ住宅地の区画整理が進むようす。水田等の農耕地が減少



碑文谷公園弁天池付近の風景(昭和初期)



旧目黒通り(昭和 27(1952)年)



中根小学校建設予定地(昭和 26(1951)年)



碑文谷警察署屋上から祐天寺方面を望む  
(昭和 20 年代後半)



目黒本町付近立会川(昭和 20 年代)



八雲区民農園で野菜栽培の講習会(昭和 54(1979)年)

写真2-3 残されている写真から見る目黒区のむかしのようす<sup>R</sup>

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編

### (3)個性あるめぐろの7つの風景



現在の目黒区の風景には、住宅地に残されたみどり、社寺や公園などに昔から残る森、川や池などかつてのめぐろを思い起こさせる風景がある一方、都市化によって新しく生まれた風景もあります。ここでは、目黒区のみどりの個性として次の特徴的な環境を「めぐろの7つの風景」として示します。

目黒区の特徴

- 特徴① みどりの風景：「住宅地」の「小さなみどり」がひろがり、「歴史を感じる社寺や公園のみどりが点在」します。私たちはそのような「身近な場所」で季節の花やいきものたちを「日々の暮らしの中」で「親しんで」います。
- 特徴② いきものの風景：公園や河川の中に、奇跡的に豊かな自然が残され伝えられています。特に駒場野公園の里山環境、東京湾から魚介類の遡上する目黒川船入場、菅刈公園の崖線林や渡り鳥の中継拠点となる大規模樹林を有する林試の森公園が重要です。
- 特徴③ 活動の風景：区民活動では、自然観察舎(駒場野公園内)、花とみどりの学習館(中目黒公園内)、目黒天空庭園、こども動物広場(碑文谷公園内)等の施設で特徴的な活動があります。

#### 小さなみどりが繋がるまちの風景

住宅地の庭、屋上やベランダ、壁面の緑化、学校のビオトープ池等の小さなみどりがつながる風景です。緑化された場所には、いきものの生息・生育地となる「土」や「水」があり、昆虫や野鳥が飛来します。

【具体例】

住宅地の庭、マンションの屋上、商店街、区内の各緑道、各小学校



#### 屋敷林や鎮守の森の風景

住宅地の中に点在する樹林で、古くから伝わる屋敷林や、鎮守の森といわれた神社の森、お寺の森、公園や学校の森など、地域のいきものの生息・生育拠点となっている樹林です。

【具体例】

駒場公園、碑文谷公園、中根公園、すすめのお宿緑地公園、目黒不動尊、五本木の森(五本木小学校)、宮野古民家自然園

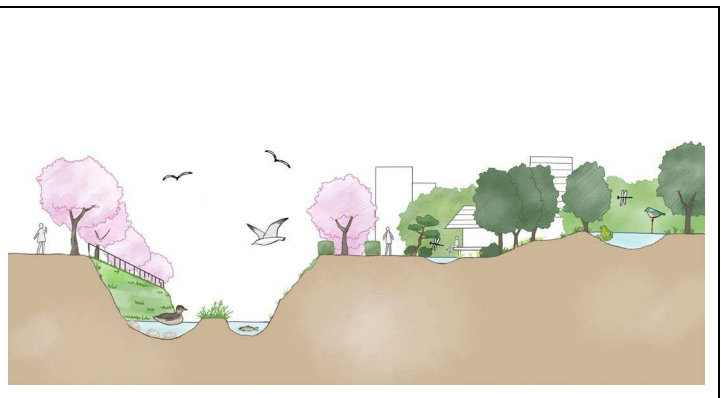


#### 広がりのある水辺の風景

かつて農業用に使われていた碑文谷公園弁天池や清水池、海とつながっている目黒川や呑川の下流の風景です。

【具体例】

碑文谷公園弁天池、清水池、目黒川、呑川下流部、目黒川船入場



第1章  
第2章  
第3章  
第4章  
第5章  
第6章  
第7章  
第8章  
第9章  
第10章  
第11章  
資料編

### 雑木林や畑・水田の風景

人の手が入ることによって保ち、伝えられる林や田んぼの風景です。様々な種類の動植物が集い、共存し、多様ないきものが生息・生育しています。

【具体例】

駒場野公園、菅刈公園、碑文谷公園



### まちなかにある農の風景

人の手が入ることによって保ち、伝えられる林や都市農地の風景です。目黒区のかつての田園風景を今に伝えます。

【具体例】

農地(体験農園、貸し農園、ぶどう園、生産緑地等)

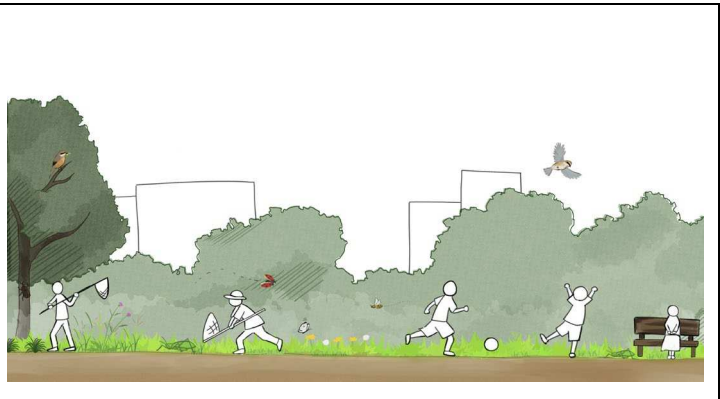


### 草はらの風景

大きな公園の園路沿いや校庭周辺、線路脇の土手などに見られる原っぱ、学校の野草園などです。

【具体例】

中目黒公園、碑文谷公園、東山公園、めぐろ区民キャンパス公園、東京大学駒場Ⅰキャンパス



### 都市の森の風景

大規模な緑地のある地域で、大学や研究所などに残る大きな樹林、目黒川に沿った崖線に連続して見られる樹林などです。区内のみどりの拠点となっています。

【具体例】

都立林試の森公園、都立駒沢オリンピック公園、東京大学駒場Ⅰキャンパス、西郷山公園、東京科学大学大岡山キャンパス

